

地球環境と産業化研究会（SGEIS）

SGEIS 2022 新春セミナー

テーマ：脱炭素経営への挑戦

～ カーボンニュートラルを目指した企業の戦略的プランと地域社会への貢献 ～

内容：脱炭素化・2050年カーボンニュートラルを達成するには、戦略的なプランと実践が望まれます。「国内企業における脱炭素の取り組みは今後どのように展開するのか?」、具体的な取り組み事例紹介も参考にして、現状と将来展望について学びます。

講演①脱炭素経営の取り組み方

一般社団法人環境エネルギー事業協会 代表 植杉昌敏 氏

講演②水上太陽光発電からカーボンニュートラル

株式会社二川工業製作所 経営企画室 サステナビリティ推進部統括部長 藪本大輔 氏

日時：2022年1月27日(木)15時～17時(14時50分開場)

15:00～15:05 主催者挨拶・進行について

15:05～15:45 講演① 15:45～16:00 質疑応答

16:00～16:40 講演② 16:40～16:55 質疑応答

16:55～17:00 事務局連絡・終了

場所：オンライン形式(Zoom ミーティング)

参加申込者には、後日入室方法を連絡します。

対象：参加資格不問

定員：30名程度(先着順、申込人数が定員になり次第締め切ります)

参加費：1,000円

主催：地球環境と産業化研究会(Society for Global Environment & Industrialization Studies)

お申し込み方法(締切：2022年1月20日)

下記のサイトからお申込みください。SGEIS事務局より受付確認メールが送信されます。

<https://forms.gle/MmZpNzchasix1TFL8>

この申込サイトが利用できない場合は、会員は氏名・会員番号、非会員は氏名(ふりがな)・所属・住所・電話番号を明記のうえ、info.sgeis@gmail.com までお申し込みください。

Zoom 会議室への入室までの流れ

- ① SGEIS から参加費をカード決済で請求
- ② SGEIS が参加費の入金を確認後、参加者へ Zoom の URL をメールで送信
- ③ 勉強会開催の 4 ～ 5 日程度前に Remind メール及び講演資料の抜粋版をメールで送信

※請求書原本の郵送や領収書の発行は、対応しませんのでご承知置さください。

※お振込み終了後のキャンセルは返金しませんので、代理の参加をお願いします。

講演概要

講演①脱炭素経営の取り組み方

一般社団法人環境エネルギー事業協会 代表 植杉昌敏 氏

企業の脱炭素化推進には、「投資対効果」という企業経営の基本が成立することが重要であるが、脱炭素化経営の成功事例はまだ見られないのでチャレンジの領域である。従って、現時点で出来る限りリスクミナムをベースとした脱炭素化プログラムを提案する。企業が脱炭素経営を推進するに当たって参考になれば幸いである。

講演②水上太陽光発電からカーボンニュートラル

株式会社二川工業製作所 経営企画室 サステナビリティ推進部統括部長 藪本大輔 氏

伐採や造成が不要で環境に優しいだけでなく、企業と地域が共存共栄する新たな事業スタイルの水上太陽光発電事業。この事業を拡大していく中、売電するだけでは無くその発電した電気を取り込む必要性を感じる。自社だけでなく自社サプライヤーにも使用電力再エネ 100%化を推進し、サプライチェーン全体でカーボンニュートラルを目論む。

講師略歴

植杉昌敏 氏 2010 年 大阪府立高等専門学校機械システム工学科卒業。同年 新日本製鉄株式会社入社、環境プロセス研究開発センターにてプラントエンジニアリング等に従事。2017 年 日本カーボンマネジメント株式会社入社、企業・自治体の CO2 削減コンサルティングに従事。2019 年 (一社)環境エネルギー事業協会を設立し、代表理事に就任。その他、(一財)省エネルギーセンター エネルギー使用合理化専門員、(一社)全国エネルギー管理士連盟 西日本支部長、(一財)大阪科学技術センター コンサルタント、(株)エネルギーソリューションジャパン 顧問、地球環境と産業化研究会 監事等を務める。

藪本大輔 氏 同志社大学法学部政治学科卒、現在株式会社二川工業製作所 経営企画室/サステナビリティ推進部/総務部 取締役統括部長。経営戦略の旗振りを担う傍ら、再エネ事業や新規事業の企画も行い、財務も司る。ため池王国である兵庫県で積極的に水上太陽光発電所を導入し、アオコ抑制、水の蒸発防止、自治会等への賃料支払いを通じ地域と密接に共存を図る。所有する 41 か所 44.7 メガの再エネ発電所を将来どのように脱炭素化、再エネ 100%化に活かしていくかを最重要課題と位置づけ、環境と調和する社会への貢献を目論む。